

12.2 反プルサーマル行動の日 質問書

**福島原発事故から学ぶことは玄海原発廃炉しかない。
玄海3・4号機の運転延長を認めてはならない。
停止と廃炉を求める**

2022年12月22日

九州電力 取締役社長 池辺和弘 様

あしたの命を考える会／今を生きる会／風ふくおかの会／玄海原発反対からつ事務所
原発知っちょる会／原発を考える鳥栖の会／さよなら玄海原発の会・久留米
戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会／脱原発電力労働者九州連絡会議／たんぼぼとりで
怒髪天を衝く会／東区から玄海原発の廃炉を考える会／福岡で福島を考える会
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会／玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会

2009年12月2日は、日本で最初のプルサーマル運転が玄海原発3号機で始まった日です。私たち住民はプルサーマルと原発稼働を強行に進められたことに理解も納得もしていないことを、2010年から毎年“12・2 反プルサーマルの日”として行動で示してきました。今年で13回目となります。

玄海3号機のプルサーマルの危険性は、ウランを燃やす目的で造られた118万kW級の軽水炉でいきなりMOX燃料を燃やしたことです。また、核分裂性プルトニウムの含有率・富化度・燃焼度の条件では世界初であり、実証炉で安全性を検証することも全く無く商業運転を始めたことは実験というべきで、以来、住民は正にモルモットにされ続けています。

プルサーマルは通常のウラン燃料と比べて、制御棒の利きが悪くなり、燃料破損の可能性が高くなるなどの指摘に対し、九州電力からの回答は「ほとんど従来のウラン燃料と変わりがない」など安全性重視とは思われず、加えて専門家は、重大事故の発生確率は高まり、事故時の被害はさらに拡大する可能性があるとして厳しく指摘しています。政府は「東京電力福島第一原発事故の犠牲」と「核燃料サイクルの破綻」を無視した原子力政策に固執するのみで、国民の安全安心を守るつもりがある様には見えません。

2020年11月18日、玄海3号機では使用済みMOX燃料16体が発生しました。現時点で利用も廃棄もできない使用済みMOX燃料の管理という難問に対して、九州電力や政府は「未来の研究開発に取り組む」と先送りの無責任極まりない回答を繰り返しています。

今年8月24日岸田首相は、「①稼働中の10基に加え、7基を再稼働、②原発稼

働原則 40 年、例外的に一回のみ稼働期間の 20 年の延長可能とした原子炉等規制法の 43 条を削除、③次世代革新炉の新增設」を表明しました。福島原発の事故処理はいまだに終わらず、被災者・被害者の苦しみは続いています。福島原発事故以来、政府が避けていた「新增設」に踏み込む岸田首相の発言は、原発の安全性への不安を抱えている国民を無視するもので、暴挙というしかありません。

福島原発事故では、多くの住民が突然くらしを奪われ、田畑を放射能に汚され、避難生活を余儀なくされました。私たちは福島原発事故を決して忘れてはならないのです。被害を負う住民として、子どもたちを守る大人として、以下の通り要請します。文書回答ならびに対話の場を求めます。

【要請事項】

1. 貴職は平成 9 年に新聞広告で「もともと原子力は危険なもの」と自ら認めているのですから住民のくらしを守る為、プルサーマル炉の玄海原発 3 号機、ならびに 4 号機を直ちに停止するように求めます。
2. 原発運転期間の原則 40 年、最長 60 年制限の削除が決められようとしている。安全性が確保されない老朽原発程危険なものはない。住民の安全を第一に考え、運転延長はしないこと。

以上

連絡先 : 玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会
090-6772-1137(石丸)・080-5254-6866(江口)